

2 家庭における情報モラル等の効果的な指導の在り方

インターネットの普及は、チャットの書き込みによるトラブルをはじめ、性や薬物等の有害情報の取得が非行につながることも見受けられます。

このため、学校は家庭に対して、家庭における子どものインターネットの適切な利用方法等について、支援することが大切です。

プライバシーの侵害

(1) インターネット等にかかわる問題

インターネットは、適切に利用している場合には、その利用効果は、非常に大きいものであるとされています。

しかし、利用する中で事件やトラブルに巻き込まれたりするなどの問題が発生していることから、家庭においては、インターネットの使用に関して、次のような危険性があることを子どもに理解させておく必要があります。

ア プライバシーの侵害

インターネット上ではお互いの顔が見ないことや匿名性が高いため、掲示板に悪口を書き込むなど、他人のプライバシーを侵害する問題が発生しています。

イ 出会い系サイトの利用によるトラブル

出会い系サイトで初めて知り合った相手に車で連れ回されたり、性的被害に遭うなどの被害が発生しています。

ウ 個人情報の漏洩

ホームページ上に自分の住所や電話番号、写真を掲載したところ、いたずら電話が続いたり、写真が不正に使用されるという被害が発生しています。

エ 有害情報の氾濫

インターネット上では、有用な情報が多数ある反面、性的なサイトや暴力的なサイトなどの有害なサイトも多数あります。これらのサイトが子どもに悪影響を及ぼすことが懸念されます。

オ 健康を害するネット中毒

メール交換に夢中になり、食事中も携帯電話を手放さないこと、また、毎日夜遅くまで、インターネット上でチャットを行い、子どもの生活のリズムが乱れることが懸念されます。

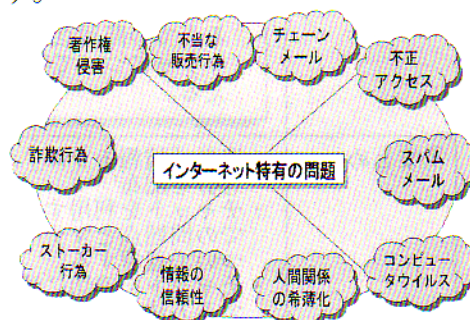
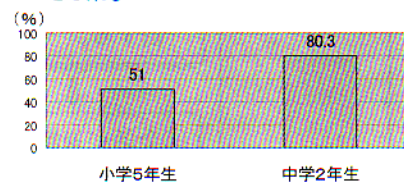
社団法人日本PTA全国協議会・青少年とインターネットなどに関する調査結果から（平成15年11～12月）

図1～図4

図1 インターネットの利用経験がある



図2 インターネットを使うとき、保護者が自由に使用させてくれる



出会い系サイト

個人情報の漏洩

有害情報の氾濫

ネット中毒

子どもと
一緒に利
用

家庭のき
まりの作
成

フィルタ
リングソ
フトの活
用

ニュー
スの活
用

(2) 子どもが家庭でインターネットを利用する際の留意点

子どもが家庭でインターネットを利用することに関して、学校は家庭に
対し、次のようなことをアドバイスする必要があります。

ア 子どもと保護者が一緒に利用する

安全にインターネットを楽しむために、児童と保護者が一緒にいろいろなホームページを見たり、親戚や友達あてのメールを書くことを通してインターネットの適切な利用方法を教えることが大切です。この時、保護者はインターネットやパソコンの操作で、正しい判断や対処ができれば、きちんとほめることが重要です。

イ インターネットの利用に関する家庭のきまりをつくる

ネット社会の危険性について子どもと話す機会をもち、「夜遅くまでやらない」「自作のホームページを公開する前には保護者に見せる」「時々、保護者がブラウザの履歴をチェックする」など、家庭でのルールを作ることが大切です。

ウ インターネット上の有害情報から子どもを守る

子どもがインターネットを利用する際には、できるだけ保護者も一緒に利用したり、ホームページの閲覧記録を確認したりすることが大切ですが、さらに、有害サイトへのアクセスを遮断できる「フィルタリングソフト」を利用することにより、安全なインターネットの利用が可能になります。

※フィルタリングソフト：好ましくないインターネット上の情報を自動的に遮断するソフト

エ 情報モラル、マナーに関わるニュースを話題にする

インターネットの不正使用やインターネットからの情報を悪用した報道など、情報社会特有の話題をその都度取り上げ、家族で話し合うことは非常に大切なことです。このことにより、情報を主体的に判断し、適切に活用していく力を身に付けさせることができます。

図3 インターネットを使う時保護者がそばに一緒にいる

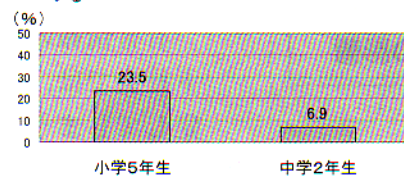
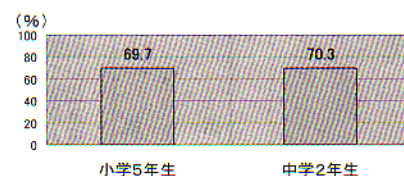


図4 フィルタリングソフトの存在を知らない保護者



実践のポイント

- ・インターネットの利用について、家庭内でのルールを決めるなど、コンピュータの望ましい使い方について話し合うことが大切です。
- ・子どもが有害情報にふれないように、なるべく保護者が一緒にインターネットを利用したり、フィルタリングソフトを活用することなどが重要です。